

連続立体交差事業で東西市街地の一体的発展

中央地区を東西に分断している鉄道を高架化し、踏切をなくして、東西市街地の一体的な発展を目指す「連続立体交差事業」は、事業主体である千葉県が平成20年3月に国から事業認可を受けました。

21年度から、用地を確保しており、その後、仮の線路と駅の設置工事を行い、約10年間をかけて事業を進めていきます。

連続立体交差事業は、東武野田



鉄道の高架化で交通渋滞の緩和や踏切事故を解消へ

線の愛宕駅と野田市駅を含む約2・9キロメートルの区間の鉄道を高架化し、駅舎をバリアフリー化して、11か所の踏切を取り除きます。あわせて関連事業として、鉄道と交差する都市計画道路や駅前広場の整備、土地区画整理事業などによって市街地の整備を推進します。

連続立体交差事業は、踏切事故をなくし、交通渋滞を解消するとともに、野田市の中心市街地を形成する総合的なまちづくりとして計画しています。

全天候型の陸上競技場

陸上競技場は昭和33年に造られました。施設の老朽化や競技種目の多様化に対応した改築が課題となっていました。

厳しい財政事情から平成15、16の2ケ年で合併特例債を活用して、陸上競技場を新市のシンボリック施設として整備し、新たに日本陸連第3種公認の全天候型陸上競技場としました。

400メートル走路8レーンのト



写真判定装置や雨天時の室内練習走路も整備

ラックとフィールドのほか観客席と管理棟を新設し、17年4月にリニューアルオープンしました。ウレタン舗装のトラックでは、新記録も生まれています。

気軽に楽しめるスケートボードパーク

健康増進やレクリエーションの場として、市民からの要望に応じて平成20年4月、スケートボードパークを総合公園内に開設しました。

施設は、滑走面が約700平方メートルのコンクリート製の平らな面とすり鉢状の変化に富んだ形状で、愛好家やプロスケートボーダーの意見を取り入れた設計です。

利用は無料ですが、総合公園体育館窓口でゼッケンを受け取り、ヘルメットを必ず着用します。

また、プロテクター（エルボーパット、ニーパット、リストバンド）とグローブの着用を心掛けてください。

初級者から楽しめて、上級者にも本格的な練習ができるという好評です。